



TITLE:

静脩 Vol. 33 No. 2 (1997.3) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 33 No. 2 (1997.3) [全文]. 静脩 1997, 33(2)

ISSUE DATE:

1997-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66022>

RIGHT:



倫理学者にもわかる工学書を

京都大学文学研究科教授 加藤 尚 武

阪神大震災が起こったとき、私は翌日には新聞社に災害対策の問題点を指摘した文章を送った。すると今度は雑誌社から災害対策論を至急書いて欲しいという依頼がきた。平成3年から経済企画庁の「安全問題の総合的な対策」というような内容の審議会の委員をしていたので、日本の災害対策については、ひととおりの知識は持っていたが、地震や建築の安全性については、最新の情報をチェックしておく必要があった。

大学の附属図書館に駆け込んだのだが、(今は一新されているが) その時には、地震や安全問題については十年も古いような本しか置いていなかった。

図書館の機能はたくさんある。デイトの待ち合わせ場所にする人もいる。私が期待するのは、専門外の知識の入手先という意味での図書館の機能である。倫理学の仕事では、生命倫理学の関連で、肝臓の障害について調べるとか、環境倫理学の関連で、大気圏の観測方法について調べるとか、調べなくてはならない領域が限りなく広い。

最新で最高の知識が即座に分かるための図書

館というのは、「ないものねだり」に近いかもしれない。どの専門領域でも、最新の知識はとても難しく思われる。何年もかかって、多くの人が紹介や論評を重ねて、だんだん分かりやすさが作られてくる。

ダーウィンの「進化論」

のように、はじめは分かりやすい理論だと思われていたのが、だんだんその難しさが分かってくるという例もあるが、その難しさが分かるといことも、分かりやすさなのである。

大学の図書館では、どうしても専門書として水準の高いものを揃えたいという要求があるだ



ろうが、倫理学者でもわかる「原子力発電論」とか、逆に病理学者にもわかる倫理学書とか、専門領域をクロスした知識の需要があることを忘れて貰いたくない。素人向けの通俗の解説書で質の良いものを漏らさず揃えて欲しい。

大学とは本来、専門の領域にまたがる知識を作り出す可能性をもつものでなくてはならない。それなのに実際は、専門の壁、文科系と理科系

の壁がどんどん厚くなってゆく。人間にとってもっとも重要な意思決定は、そのような壁にまたがるものなのである。人間が必要な意思決定の能力を失う危険が増大している。学問のあり方そのものを変えてゆく必要があるが、その土台となるものは、図書館という情報の集積体だろう。

(平成9年1月31日)

PsycLIT (心理学行動科学文献情報) のネットワーク利用について

総合人間学部参考調査掛長 沼澤 博

1. はじめに

このたび、PsycLIT を学内3部局（文学部、総合人間学部、教育学部）で分担購入し、附属図書館のCD-ROM サーバ機により、吉田地区でネットワーク利用できるようになった。検索利用できるようになったのは、1月7日からである。

2. スタンドアローンのころ

PsycLIT は、Psychological Abstracts のCD-ROM 版である。心理学関係の雑誌論文等を検索するデータベースで、1974年以降のデータが検索でき、年4回更新される。各データには抄録がついていて、簡単な内容を知ることができる。このCD-ROM を総合人間学部図書館では、平成7年の夏からスタンドアローン形式で提供してきた。通常の経費とは別に学部創設にかかる予算が配当された折り、「これからは研究者も学生も雑誌論文をもっと利用しなければならない、冊子体目録で検索しているようではいけない」と強く主張してくださる先生があって、講座予算で購入し図書館へ提供されたのである。その時、PsycLIT の他に社会学関係のSociofile、文学・語学関係のMLA International Bibliography も購入していただき、提供してきた。

3つのデータベースのうちで群を抜いて利用の多かったのが、PsycLIT であった。教育学部の院生・学生の利用が多く、聞けば利用した人から人へのヒューマン・ネットワークで広まった様子。最初に使ってその便利さを知った誰か

が、そのよさを宣伝したらしい。いろいろと張り紙をして利用促進を図ったけれど、張り紙よりも実際に経験した人の一言の方が遙かに効果があったということだろう。

「これまでどうやって論文を探していたの？」

「教育学部にある冊子体の『Psychological Abstracts』です」

「CD-ROM と比べて、どう？」

「あんなの、もう、使えませんよ」

そのような会話を幾度となく繰り返した。

しかし、PsycLIT の年間使用料は50万円を超える。特別予算のつかない翌年度以降の契約を講座に期待することはできないし、図書館の予算から拠出するのも無理な話であった。とはいえ、せっかく提供してきたサービスを中止するのは、図書館としても辛いことである。

だから、昨年春ごろからは、

「もうすぐPsycLIT は使えなくなるからね」

「そんなの、困ります。なんとかしてください」

「そう、困る。だから、その困るっていうのを、ここじゃなくて、教育学部の図書室とか、指導の先生に言ってよ。そうしたら、なんとかなるかもしれない」

というような会話にかわった。

教育学部の図書掛長と顔を合わせると、教育学部の院生・学生のPsycLIT 利用がいかにか多いかという話をし、なんとか購入に協力してくれるようにという話をしたが、協力したいのだが、図書予算が少ないので無理ですよ、という返事であった。

だから、正直いってなんとかかなると思ってい

たわけではない。いくら便利だからといっても、また PsycLIT の利用が多いといっても、医学・薬学系の MEDLINE のように一日中だれかが使っているというわけではない。せいぜい日に数人が使う程度で、利用者ゼロの日もあるというのが実状だった。

3. ネットワークへ

PsycLIT を総合人間学部・文学部・教育学部で共同購入する話が進んでいて、その具体的な打ち合わせをしたいけれど都合はどうだろうか、という意味の連絡が教育学部の図書掛長から入ったのはいつだっただろうか。

平成 8 年 9 月 4 日付けで教育学部心理学科長の坂野教授名で、「CD-ROM サーバシステムで提供するデータベースソフトウェア (PsycLIT) の運用について (依頼)」が長尾附属図書館長に提出されており、導入のための打ち合わせが 10 月 8 日に行われている。

依頼文書提出の数日後くらいに最初の連絡があり、先生方の都合を確認した上で打ち合わせ日の最終連絡があったのだらうと思う。

附属図書館では、平成 7 年 12 月に「CD-ROM サーバシステムにおける部局等からの提供ソフトウェアにかかる受入要項」を定めており、部局提供の CD-ROM はそれにしたがって購入・管理・運営が行われることになっている。これは、今後ネットワーク利用への要望が増えるであろうことを見越しての策定であったと思われる。

実際、平成 8 年 5 月には、この要綱に基づいて GeoRef のサービスが開始されている。受入要項の基本は、購入費用は申し入れ部局が負担し、運用及び管理にかかる経費は附属図書館が負担するというものである。

受入要項が定められているとはいえ、複数部局で実際に運用しようとすれば、それに付随して幾多の問題が生じる。今回の導入に関しては、利用者数と負担金、冊子体のバックナンバーの保管場所、1 月よりサービスを開始するための契約、検索ソフトの配布方法、サーバシステムの問題等があった。

システム面で、MEDLINE と GeoRef は内容をハードディスクにインストールしてサービス

しているが、PsycLIT はハードディスクへのインストールができないソフトであることが問題であった。提供するためには、サーバ側に CD-ROM ドライブを用意する必要があり、附属図書館でこれを準備することとなった。

その他の問題では、負担金は 3 部局が 3 分の 1 ずつの均等負担とすること、利用が減少すると予想される Psychological Abstracts のバックナンバーは附属図書館に移管すること、契約行為は、受入要項では CD-ROM の提供部局が行うことになっていたが、附属図書館で行うこと、そして検索ソフトの配布や利用手続等事務的な処理については、附属図書館および 3 部局図書室が窓口となることで合意した。

4. 今後の課題

CD-ROM 検索とオンライン検索を比較したとき、前者は時間・費用を気にすることなく利用できる点に長所がある。それをネットワークで利用することのメリットは、学内であれば、いつでも、どこからでも検索できる点であろう。これらの利便性を広く宣伝し、多くの人に利用してもらわなければ、かえって高いものになってしまう。

とはいえ、ネットワークで自由に使うことができるのは、まず教官それから院生であり、学生は附属図書館や所属の図書室のパソコン等を利用して検索することになろう。しかし、総合人間学部図書館には、検索のために利用者が自由に使えるパソコンがない現状である。事務用のパソコンはネットワークにつながっていて検索することができるので、とりあえず希望者にはそれを使って検索してもらえば良いのだが、文書作成やデータ管理等に使用しており、いつでもどうぞ、とはいえない状態である。それに事務室内へ利用者が入ってきて検索するというのは、利用者にとっても職員にとってもあまり好ましいことではない。おそらくこれは総合人間学部図書館だけの問題ではなく、各部局図書室が抱える共通の問題であろう。今後、ますますネットワーク利用が盛んになるとされるだけに、全学的な課題として早急な解決が望まれる。

アメリカの大学図書館訪問記II：UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

附属図書館専門員 片山 淳

1. はじめに

前回に続いて昨年度末のアメリカ研修旅行から、UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) の図書館を訪れた時に得た図書館関係の話を紹介したいと思います。

2. UCLAの図書館

1) コミュニティの図書館

UCLA の University Research Library (中央図書館) (以下「URL」という。)を訪れたのは、3月20日のことでした。数年前に京都で開催された日米ワンデイセミナーで知り合った図書館員がいたこともあり、予め連絡しておいたので資料も準備してくださり、見学の時間も用意していただいていたので、図書館の現場を少ない時間で見ることができました。誌上から UCLA 東アジア図書館の三木さんにお礼申します。ありがとうございました。

図書館への入館に際して驚いたことは、ゲートの脇にいた警備員が誰でも入っていいのだという感じで通してくれたことです。三木さんに会いたいのですがと言うこともなく通してくれたのです。オープンな図書館でした。警備員は少し太めのまだ若そうな、気持ちの良い、明るい、少し茶目っ気のある人でした。後で三木さんに聞くと、大学の図書館ではあるけれど、州からの補助もあり、いわゆるコミュニティのための図書館として活動しているということでした。したがって、誰でも自由に入館することができるのでした。日本の大学図書館とどうも雰囲気が違うという印象でした。身分証の確認も必要ではなく、目的を聞かれることもなく、入るのは自由という感じでした。もちろん、出る時には資料の無断持ち出しのチェックをする体制になっていたのですが……ちなみに、BDSは参考資料コーナー(1階)の入口に設置されていましたし、レファレンスコレクションと特殊コレクションは、その部屋での利用に限定されていました。つまり、Circulationからは除外されているのでした。

2) 選書

感心したことの二番目は、選書の体制です。Library Guideにもあるのですが、主題分野毎に選書担当者が定められ、利用者にわかるように公表されていたことです。三木さんは日本語・日本文化担当となっていました。聞いてみますと、その主題分野の選書についてはネットワークを通じて、質問や要求が寄せられ、議論できるようになっているということでした。担当する図書館員は名前だけでなく、連絡先・住所・E-mail アドレスまで公表されているのです(図1参照)。選書・収書の責任体制が明確になっていることは極めて重要なことだと感心しました。

3) 図書館システムを構成する図書館群

さて、UCLA の図書館群について書いてみます。総合大学で、20の図書館群から構成されて

図1

COLLECTION DEVELOPMENT LIBRARIANS DIRECTORY All 7-character e-mail addresses end with @MVS-OAC.UCLA.EDU		
<p>JAN Campus 145802 JAN@MVS-OAC.UCLA.EDU</p> <p>AS Engineering Library Campus 159810 CZSEBA</p> <p>AM s Group Campus 157511 CZSEBA</p> <p>BROWN Campus 157511 CZSECB</p> <p>R Stons Campus 157511 CZSECA</p> <p>R Library Campus 179620 CZSEDC</p> <p>G ray Campus 157511 CZSEDI</p> <p>IS partment Campus 157511 CZSEDI</p> <p>f Engineering Library Campus 159810 CZSEAN</p> <p>IKAL partment Campus 157511 CZSECO</p> <p>LD ray/Management 002 CZSEAC</p> <p>ions Campus 157511 CZSEGO</p> <p>ELBAM ment Information Library Campus 157511 CZSEMD</p> <p>JOHANN Library Campus 179820 CZSEAT</p> <p>R s Group Campus 157511 CZSEAO</p> <p>f Campus 149006 CZSEAC</p>	<p>BARBARA HANER Science & Engineering Library 8251 Boulder, Campus 159810 825-1055 • ECZSEBH</p> <p>JUDITH HERSCHEMAN Arts Library 2250 Dickson, Campus 139206 206-5426 • ECZSEHBN</p> <p>DAVID HERSCHE Bibliographers Group A1540B URL, Campus 157511 825-3398 • ECZSEHBN</p> <p>AUDREY JACKSON Science & Engineering Library 8251 Boulder, Campus 159810 825-3398 • ECZSEHBN</p> <p>MIXUNG KANG East Asian Library 21617 URL, Campus 157511 825-6937 • ECZSEKMH</p> <p>JOHN KARLOVITZ Biomedical Library 12077 CHS, Campus 179820 206-8016 • ECZSEKMH</p> <p>BRIGITTE KUEPERS Arts/Special Collections 22478 URL, Campus 157511 825-7253 • ECZSETHA</p> <p>CATHERINE LEE Bibliographers Group A1540A URL, Campus 157511 825-1534 • ECZSEJEE</p> <p>EUDORA LOH Bibliographers Group A1540Q URL, Campus 157511 825-1125 • ECZSEJH</p> <p>ROBERTA MEDFORD Bibliographers Group A1540G URL, Campus 157511 825-1249 • ECZSEKMH</p> <p>MICROKO MIKI East Asian Library Campus 157511 825-6836 • ECZSEKMH</p> <p>PAUL NADITCH Bibliographers Group A1540M URL, Campus 157511 206-0936 • ECZSEKMH</p> <p>CHEE NG-GARD Map & Government Information Library A1540L URL, Campus 157511 825-3526 • ECZSEKMH</p> <p>KAMON PETERS Science & Engineering Library 8251 Boulder, Campus 159810 825-6196 • ECZSEKMH</p> <p>KATALIN RADICS Bibliographers Group A1540I URL, Campus 157511 825-1843 • ECZSEKMH</p> <p>RAYMOND REECE Arts/Special Collections 22478 URL, Campus 157511 825-7253 • ECZSEKMH</p>	<p>PETER REIL Clark Library 2250 Crenshaw Street Los Angeles, CA 90018 213-735-0487 • REIL@UCLA.EDU</p> <p>BARBARA SCHERER Biomedical Library 12077 CHS, Campus 179820 825-6498 • ECZSEBS</p> <p>CYNTHIA SHELTON Bibliographers Group A1540E URL, Campus 157511 825-1324 • ECZSECS</p> <p>BARBARA SEVERAL Map & Government Information Library A1540J URL, Campus 157511 825-1086 • ECZSEBS</p> <p>LOE SWABER College Library 121 Towell, Campus 145004 825-2138 • ECZSEBS</p> <p>RAYMOND SOTO Bibliographers Group A1540H URL, Campus 157511 825-4087 • ECZSEBS</p> <p>LOUISE SPEAR Ethnomusicology Archive 1630 Schoenberg, Campus 149006 825-1695 • ECZSEJOU</p> <p>GORDON THEIL Music Library 1102 Schoenberg, Campus 149006 825-1389 • ECZSEJOU</p> <p>ALFRED WILLIS Arts Library 2250 Dickson, Campus 139206 206-5426 • ECZSEBS</p>
ORGANIZED RESEARCH UNITS		
		<p>RICHARD CHABRIAN Chicana Studies Research Library (CSRL) 54 Haines Hall, Campus 13803 206-4052 • CHABRIAN@UCLA.EDU</p> <p>ANGELIC LEE Asian American Studies Center Library (AASCL) 2288 Campbell, Campus 154602 825-3043 • AASCLML</p> <p>VELMA SALABERRY American Indian Studies Center Library (AISC) 3214 Campbell, Campus 154602 206-7310 • ECZSVSS</p> <p>ITIBARI ZULU Center for Afro-American Studies Library (CAASL) 44 Haines, Campus 154503 825-6006 • ECZSVSS</p>

CHS = Center for Health Sciences • OGM = Old Graduate School of Management • URL = University Research Library

図 2

Campus Libraries UCLA



いました(図 2 参照)。建物としては主題分野毎に、14の図書館群でしたが……。

中央図書館である URL には、特殊文庫、地図・政府刊行物、東アジア関係などのコレクションが備え付けられていました。特殊文庫は、膨大なカード目録とともに、中央図書館の地階にありましたし、東アジア図書館は3階の一角に、地図・政府刊行物は地階にありました。地階には、貴重書庫といってよい保存書庫があり、ここでは写真撮影でフラッシュを焚くことが禁じられていました。

中央図書館の組織として注目したいことは、Bibliographers Group が存在することです。本館の情報管理課にあたる部分は、一階の資料貸出・返却用のメインカウンターの右側にあり、受入・目録担当係があり、その奥に7～8室の個室が設けられていました。これが、Bibliographer の部屋でした。書誌作成者とも呼べば良いのでしょうか、書庫内研究資料の選択・管理を担当する人達で、蔵書構成に責任を持つ集団です。いわゆる我々と同じ図書館員とは給料も少し違う(高い)のだそうです。

1階に備え付けられているコレクションは、雑誌、参考図書で、ORION と呼ばれるシステムのオンライン情報サービス用の端末が16台、Information Desk を挟んで16台(MELVYL も使える)合計32台が配置されていました。こ

れらの端末の奥に雑誌コレクション、隣合わせてレファレンスコレクションが BDS とともにあり、レファレンスカウンターには3台の端末が置かれ、利用者からの質問の処理(ILLの受付も含む)をしていました。

URL 1階の説明が長くなりましたが、キャンパスの図書館群の配置は図2のとおりです。キャンパスの中心部に University Archives (Powell Library) があり、芸術、経営学、法律学、URL が北部に、音楽、理工学(物理)、教養(College)が近辺に、理工学の化学、数理工学、地質学が少し南に、生命科学が病院とともに最南に、そしてカリフォルニア大学の保存図書館及びドキュメントデリバリー機能を果たすための南部地域(数カ所にあるカリフォルニア大学の南部という意味)図書館施設があります。数理工学図書館の近くの生協 Ackerman Union のそばに、複写サービスセンターがあり、特殊コレクションの類は、音楽関係を除いて URL に集中されていました。

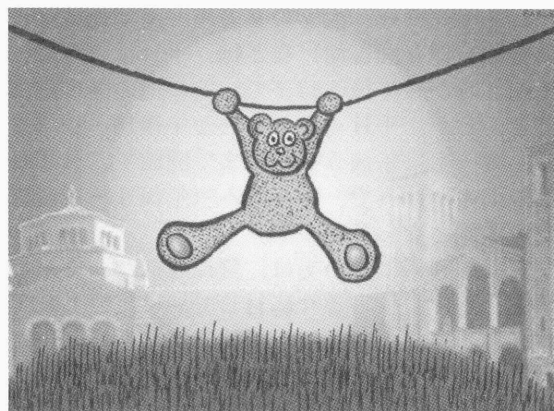
University Archives のある Powell Library や Ackerman Union のあるキャンパスの中央通りが“Bruin Walk”と呼ばれ、日本語に翻訳すると“熊の歩く道”という意味になりますが、これから取った名前が UCLA のキャンパスネットワークシステム・サービスに付けられており“BRUIN ONLINE”と呼ばれています。

4) ネットワークサービス (BRUIN ONLINE)

BRUIN ONLINE はネットワークシステム・サービスの名称ですが、そのホームページには、張り巡らされた綱にぶら下がる熊のライトアップされた姿を描いたイラスト(図3)が取り入れられています。

ネットワークサービスは、OAC (Office of

図 3



Academic Computing) という組織が運営母体となっており、季刊誌として“Perspective”が刊行されており、様々なニュースや案内が流されています。この組織は、以下の4つの部門から構成されています。

① Computer Operations と User Services
を内容とする Computational Services

② Microcomputer Information Center と
ハンディキャップを負った人に対するサポート
を担当する Microcomputer Support Office

③ Help Desk を構えネットワークの維持・管理
を担当する Campus Network Services

④ Academic Technology Center

利用者には、オンラインで自動的に BOL-id (Bruin OnLine id) が付与され、E-mailをはじめとする様々なネットワークサービスが利用できます。ホームページには、BOLについての利用綱領、ガイド、援助の求め方、キャンパス情報、学生生活情報などが盛り込まれています。ネットワーク上には InfoUCLA としての Gopher、WAIS、www などのサーバ、USENET のニュースサーバ、電話番号と電子メール：E-mail アドレスのディレクトリなどが設置されており、活発に利用されているようでした。利用状況を示す一つの例として、InfoUCLA の www サーバへのアクセス数は、4,600 (1993) から 58,000 (1994) へと成長したそうです。情報処理教育もこの OAC が担当して実施しており、internet、UNIX、SAS、PVM などが2時間コースでスケジュールされています。internet の基礎コースの場合、URL の2階にあるメディア教室や南部地域図書館の Biomedical Library で週一回ぐらいのペースで開催されているようです。

5) 図書館サービス

MIT についても見たように、サービス時間帯について、まず紹介します。特殊文庫、複写サービスセンター、大学の文書館、南部地域図書館施設 (保存図書館) などは、平日に限られ、午前9時から午後5時まで。その他の図書館はほとんどが、平日 (月～木) が午後10～12時まで、金～土は午後5～9時まで開館で、日曜日は午前中が休みで、午後のみ (午後9～12時まで) 開館となっています。

資料の利用については、貸出規則が、外来者、学生、院生、教官各々に対して別に定められています。言えることは、特殊文庫や参考図書資料はステータスに拘わらず、館内利用に限定され、製本雑誌や未製本雑誌やパンフレットや非

図書資料について、外来者には貸出が認められていないことです。

また、クラスに対するサービスとして、情報源への主題からのアクセス・書誌的アクセス・電子的アクセスについての相談サービス、図書館利用指導、図書館が援助するワークショップ (オリエンテーションにおけるツアー、www やオンラインデータベースや CD-ROM など電子的情報源の使い方、ORION や MELVYL システムのデータベースの利用についてのデモンストレーションなど) の開催が用意されています。

ILL における図書館間貸出サービスは、教官、学生、図書館カードを所持している学内者が無料で利用できるサービスとなっているようでした。さらに、UC (カリフォルニア大学) の各分校間のドキュメントデリバリー及び図書資料のデリバリーサービスが実施されており“ORION EXPRESS”と呼ばれ、要求を受けてから48時間以内に該当資料を手元に届けるサービス (Document Delivery and Paging Services) が実施されていました。

6) 図書館資料へのアクセス (CAT and TEN)

さて、UCLA の図書館目録は、カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学、研究図書館センター、カリフォルニア科学アカデミー、スタンフォード大学などカリフォルニア州の共同分担目録システムとなった MELVYL でサービスされるオンライン目録と、オンライン情報システム (ORION) で提供されるオンライン目録 (これは目録というより受入データベースと言った方がよい) とがあります。ORION のデータは、図書館資料の最新レコードで構成されており、受付された雑誌類や図書館が発注・受入・整理している資料についてのレコードに重点が置かれたものです。つまり、資料の受入・受付情報の最新データ (業務システムのデータ) が ORION で提供され、目録情報データベースは MELVYL で提供されるということになります。しかも、MELVYL の目録情報データベースは“CAT & TEN”と呼ばれており、地域総合目録 (CAT) と最近10年間のクイックレファレンスのためのアクセスファイル (TEN) が用意されており、データベースを選択して使うことができます。なるほどと思いました。つまり、最近10年間の目録が別ファイルとされており、検索対象のファイルが分けられていたのです。10年といいますが、学術文献の寿命として10年あれば良いとする説もあります。確かに、我が

京都大学附属図書館でも、和雑誌のオープンアクセスは10年までとされていた時があります。MIT でも、1963年を境に資料を保存対象とするように区切られていましたが、これは稀用資料の保存とともに、整理技術との絡みもあつてのことだと思われます。結局、UCLA では、図書館資料へのアクセスファイルが3種類用意されていることとなります。受入・受付、TEN、CATです。先述した選書における話と絡めて考えますと、利用者に図書館資料の選書からのすべての段階のデータが提供されていることとなります。この意味では、大学構成員に対して図書館の情報が丁寧に提供されていることになると思います。

7) 電子的情報源とサービス

UCLA で提供されている情報サービスは、先述した ORION と MELVYL、そして BEN と呼ばれる電子メールシステム、“BRUIN ONLINE” という4種類のシステムです。ORION、MELVYL、BEN、internet の利用は、学生・教官は無料で利用できるようですが、職員が利用する際には、キャンパス内の図書館のサービスデスクから利用する場合は無料ですが、職場の端末からアクセスする場合は、1時間について1～4ドルの料金がかかるということでした。学外者によるキャンパス外からの利用については、当然課金されます。

ORION で検索できるデータベースには、様々なキャンパスデータにアクセスできる InfoUCLA (カリキュラムやディレクトリや構内の書店の在庫情報など)、その他学内にある文書類やコレクション (図書館以外のもの) のデータベースとして以下のものがあります。

1. Chicano Studies Research Library
2. Ethnomusicology Archives
3. Film and Television Archive
4. Institute of Social Science Research (ISSR) Data Archives
5. Instructional Media Library

一方、MELVYL でサービスされているデータベースは、オンライン目録以外では、“MAGS NEWS and COMP” と呼ばれる雑誌論文索引データベースがあります。これは、1988年以降現在までの約1,500の雑誌の抄録とフルテキストを収めた MAGS (Magazines)、1982年以降現在までの New York Times, Washington Post, Los Angeles Times, Wall Street Journal, Christian Science Monitor の5つの主要

新聞の記事を対象にした NEWS、コンピュータ関係の約200ほどの出版物からとった引用文献を対象にした COMP がその内容です。MEDLINE、Current Contents、Inspec、PsycInfo、ABI/Inform などのデータベースもサービスされています。さらに、Elsevier 社と UC との間の協力によって、43種類の物質科学・工学関係の電子ジャーナルが提供されているのは MIT と同じ実験プロジェクト TULIP によるもののようでした。

8) 見学の印象

以上が、UCLA の図書館システムの概要です。このシステムを見て感じたことは、MIT の印象と重なりますが、以下のようなことです。

第1に、ネットワークが有効に機能していること。

第2に、コミュニティへのサービスとして図書館が機能していること。

3. おわりに

ここまで書いてきてやはり思うことは、アメリカの図書館システムの合理的なまとまりです。図書館ネットワークシステム・サービスは、広大なアメリカにとって必要不可欠なものだったのではないのでしょうか。技術的に急激な展開を遂げたのも、必要性があったからではないかと思います。もちろん我が国においても、情報における地域格差をなくし、誰でもが平等に必要な情報を手にすることができるというシステムの必要性は不変です。高度情報化社会の到来が言われ、図書館が高速ネットワークのなかで、どんなサービスを展開するのかが問われている現状において、先進国アメリカの大学図書館が展開してきたサービスは一つの先進例となるのは間違いないことです。

(平成8年6月26日)

(参考文献)

1. UCLA Library Guide 1995/96
2. perspective v. 19 no. 2 1995
3. perspective v. 20 no. 1 1996
4. UCLA Facts
5. UCLA URL (中央図書館) が作成・発行しているパンフレットやリーフレット類

@これらの文献は著者の手元にあります。
ご覧になりたい方は連絡ください。

(tel. 753-2630)

第9回国立大学図書館協議会シンポジウム (西地区：名古屋大学)に参加して

附属図書館資料運用掛長 小川 晋平

11月27日から28日までの2日間名古屋大学附属図書館を会場として20大学24名が参加し、講演と事例報告が行われた。

このシンポジウムは「大学図書館と公共図書館の共生」という大きなテーマであった。

公共図書館との関連を考える上では、相互利用（協力）といった利用に関する実務上のテーマの方がよりアプローチしやすい気もしないではないが、開催館挨拶でも触れられたが、個々の問題を考えていくスタートラインであるという位置づけをされたシンポジウムであった。

「生涯学習時代における館種を超えた図書館間の相互協力の在り方」と題して基調講演がなされたが、公共図書館と大学図書館の活動の特質として、サービス・ポリシーの違い、公共図書館が大学図書館を“OUT-SOURCING”として期待しているのに対し、大学図書館が求めるものが明確ではないなどという問題点や、大学図書館の現状として物的にも人的にも無制限に一般市民を受け入れるだけの体制がないという点から、一定の制限をつけた大学図書館の公開という形でしかやむを得ないのではないか、という問題提起がなされた。

事例報告としては、公共図書館の動きとして、「すべての図書館をすべての利用者に」という理念のもと、利用資格条項としての在住、在勤、在学を撤廃した三重県立図書館は、大学図書館の「共生」の事例として組織、相互利用、研修の面から報告があり、今後の課題として物流を含む「県内ネットワークの形成」と交換実務研修を含む人的ネットワークの形成があげられた。

また、名古屋市立図書館から年報をもとに、現状についての報告があった。

私立大学の動きではあるが、大学移転にともなう、全学的な地域開放への取り組みの中で、付属図書館の一般公開にとどまらず学内外の文化センターとしての役割を担っている活動の報告があった。

国立大学からは、熊本県図書館連絡協議会の歴史を中心に現状とこれからの課題について報告がなされ初日の日程を終えた。

2日目は、「サイバースペース時代の地域図書館ネットワーク」と題して、インターネット時代における図書館と図書館員の変化と、これからのネットワーク時代における資源共有の実際について外国の例を示しながらの特別講演が行われた。

これらの講演や事例報告を受けて最後に全体討議が行われたが、やはり、共生の在り方という点より、実務上の視点から発した質疑となりがちであった。

あらためて、2日間のシンポジウムを振り返った時、相互利用という概念一つにしても、業務形態が複写である大学図書館に対して、現物貸借である公共図書館など、「共生」において概念と業務の相互理解が必要であること。生涯学習への支援が時代の要請であるにしても、無制限に受けとめることは、カウンターで働く者にとってはかなりのストレスであり、それを創意と工夫で解決するにはあまりにも大きすぎる課題であることが思われた。

変革の時代であり、レボリューションには強引さも必要という意見もあったが、現状をすり合わせていく作業を望む気持ちの方がやはり強い。そのためにも、本テーマをさらに掘り下げたシンポジウムの開催を期待するところである。

1日最大5,600人を越える入館者があるなかで、あらためて考える時間を得ることができたことと、シンポジウムの内容とは異なるが、会場で懐かしい人や電話でしか話したことのない人と出会うこともでき、この面からも参加する機会を与えられた事を感謝したい。

図 書 館 の 動 き

学術情報センターとの共催による 地域講習会 (IR、CAT、ILL) を開催

平成 8 年度に学術情報センターとの共催で実施した地域講習会は、以下のような日程および内容で実施されました。

- 10月3—4日：I R 講習会 (16名)
- 10月22—24日：C A T 講習会① (10名)
- 10月28—30日：C A T 講習会② (10名)
- 11月19—20日：I L L 講習会 (10名)

センターと協力して、毎年、定期的にこのような講習会を開催してきており、内容については、十分良く知られたものとして定着してきました。ところが、CAT については、学内の受講者は、ある程度行き渡ったのか、このところ少し減少傾向にあります。センターのサービスの安定的な運用、そして利用者の範囲の拡大に伴い、この講習会の役割も大学内に止まらず、より広い範囲を対象とすることになってきたように思われます。

来年度には、学術情報センターのシステムが新 CAT へ移行してゆく作業が開始されることでもあり、次年度以降これらの講習会の開催方法についても再検討が必要になっているのかも知れません。

(和書目録情報掛)

学術情報センターの新目録所在情報サービス説明会を開催

平成 9 年 2 月 21 日薬学部講堂において、学術情報センターが開発を進めてきた新目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) の説明会が開かれました。

関西地区を中心に国公私立大学・短大・高専および公共図書館など 129 機関から、343 名の図書館職員が集まり、新しいサービスの説明に熱心に聞き入りました。

参加者の内訳は下記の通りでした。

国立大学・高専	18機関	109名
公立	17	47
私立	84	175
公共図書館	7	9
その他	3	3
計	129	343

学術情報センターのシステムが、平成 9 年 4 月より、ダウンサイジング、インターネットに対応したものに移行を開始するにあたって開催された、参加図書館への内容説明でした。

本学においても、平成 10 年 1 月に現在の業務用電子計算機システムのリプレイスおよび電子図書館システムの導入・稼動を計画しており、センターとの連携を効果的に図っていく必要があります。

(システム管理掛)

「電子図書館システム」構築に向けて 動き始めました

平成 9 年度概算要求「電子図書館システム」に対して予算が付くことが 12 月 25 日に文部省から連絡が入り、明らかとなりました。

大学図書館機能の高度化のために、京都大学において実現すべき内容として要求していたもので、筑波大学とともに、大学図書館における新規プロジェクトとして、平成 9 年度より、実現に向けて努力していくこととなります。

21 世紀へ向けて、本格的ネットワーク時代にある大学の図書館の在り方の一つの方向性を作り上げ

ることが期待されるわけですが、全学の図書系職員の周知を集めるだけでなく、京都大学における高度情報化の中での取り組みの一つとして、全学的に有効に機能するシステムを作り上げる必要があります。

平成 10 年 1 月の稼動に向けた取り組みがもう始まっています。具体的な計画の立案からその実現へと図書館が有機的組織として機能することによって、大きく変化することになるかも知れません。大学図書館の利用者層の意向をも反映した新しいサービス機関としてどのような変貌を遂げるか、総合情報メ

ディアセンターや総合博物館と協調してどのような情報サービスを提供していくか等調整を行い、効果

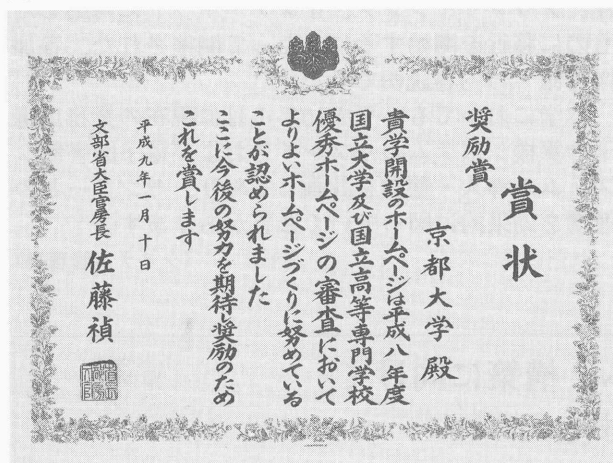
的な内容を計画し実践する予定です。ご理解とご協力をお願いします。
(システム管理掛)

本館ホームページが 「国立大学等優秀広報誌等表彰・奨励賞」 を受賞しました

国立大学等優秀広報誌等表彰に、平成8年度より新たに、優秀ホームページを表彰する「ホームページ（インターネット）の部」が設けられ、平成8年12月に選考が行なわれ、本学より推薦されていた「京都大学附属図書館ホームページ」が奨励賞を受賞しました。

本館のこのホームページは、平成8年1月に開設されたもので、館内職員による電子図書館ワーキンググループが中心となって立ち上げ維持してきたものです。

評価された内容は、Java アプレットを使った技術的な面よりは、公開している内容の豊富さが対象とされたようです。本館ホームページの構造概念図（下図参照）を見てもわかりますように、目録や電子展示に掲載している図書館資料情報の電子化が同時に進んでいる面が、審査において特徴的であったもの
賞状



と思われます。

平成9年度の電子図書館システムの予算化も、図書館資料情報の電子化の推進とともに既存の図書館システムとの有機的な結合が最も注目されるであろうと考えます。図書館職員の衆知を集めて、より機能としてまとまったシステム化を実現していくことが求められています。

(電子図書館ワーキンググループ)

附属図書館ホームページ構造概略図



展示会「『今昔物語集』への招待」を開催

附属図書館では、平成8年度の秋季展示会を、展示ホール（3階）において、11月11日（月）から17日（日）までの7日間、標記テーマで開催し、国宝鈴鹿本『今昔物語集』および本館所蔵の重要文化財指定図書を展示した。入場者数は947名であった。開

催期間中の11月15日（金）には、AVホール（3階）において、本学の西山良平総合人間学部助教授による講演会、「『今昔物語集』の〈構造〉と歴史学」を開催した。来聴者は121名であった。なお、展示会開催に先立つ11月8日には、鈴鹿本『今昔物語集』の

寄贈者である鈴鹿紀氏、井村総長ほか学内関係者およびマスコミ関係者の出席を得て、展示披露を行った（写真はその模様）。



展示会は「『今昔物語集』への招待—鈴鹿本『今昔物語集』国宝指定記念」と題して、今昔物語集を中心とする第一部と重要文化財指定図書の第二部により構成した。

第一部は『今昔物語集』の成立と「鈴鹿本」の位置づけ、その後の影響など、『今昔物語集』の広大な世界を時代を追って紹介することを企図した。展示資料は鈴鹿本『今昔物語集』のほか、附属図書館、文学部の所蔵する関連資料、他機関所蔵の『今昔物

語集』諸本の写真パネルなどである。

第二部では重要文化財指定図書39点を展示した。平松家本3点、清原家家学書34点、その他2点をそれぞれ1グループとして展示した。

展示目録は解説と写真図版で構成した。

展示会にあわせて電子展示も行うこととし、附属図書館ホームページのコンテンツに加えて、インターネット上で公開し、展示会場にブラウザ端末を設置した。また、鈴鹿本については、全文のイメージと翻刻による「www 版鈴鹿本『今昔物語集』」を作成して、電子展示画面とリンクした。これらは展示会終了後も引き続いて公開されている（URL：<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/konjaku>）。

来観者へのアンケートで興味深い展示資料としてあげられたのは、やはり国宝・鈴鹿本『今昔物語集』が多かったが、万葉集（尼崎本）清原家家学書などもあげられていた。展示の感想としては、「わかりやすかった」「ゆったりしていた」「系統的にならべられていて工夫がみられた」などの意見も寄せられた。文字資料が多く色彩的には地味であったが、資料の魅力は十分に観覧者に伝えられたと思われる。

（雑誌・特殊資料掛）



「論文・レポートのための文献収集講座」開催は大好評のうちに



附属図書館において、前号でお知らせしたように、下記のように中級オリエンテーション「論文・レポートのための文献収集講座」を開催しました。

開催日時

1 週目…10月 7—8 日 12:10~12:55

2 週目… 14—16 日 15:00~15:45

場所：附属図書館 3 階 AV ホール

講座の内容は、主として学部生を対象とし、レポート・論文を作成する時に、図書館を使って、自分の調べたいテーマに関する資料をどのように探したらよいのか、京大にない場合はどのように入手したらよいのかについて説明いたしました。図書の場合、雑誌の場合、新聞・学位論文等の特殊資料の場合について、それぞれ附属図書館 1 階備え付けの参考図書や CD-ROM を駆使して調べる方法を具体的に説明しました。

このような利用案内は、昨年度までは新学期当初

に新入生を対象に行うオリエンテーションの中で簡単に行っていましたが、時間の制限もあり、大変不十分でしたので、今年度からは内容を文献の探し方に限定して充実させ、秋に行うことといたしました。

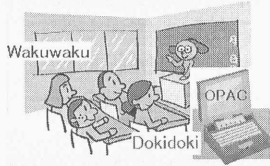
初めての試みで、どのくらいの方に来ていただけたのか心配でしたが、連日多くの方の参加を得、熱心に受講する顔が見られました。

参加者数は468名で、そのうち360名の方からアンケートの回答が寄せられています。回答内容から抜粋して紹介しますと、参加者は、4 回生が一番多く103名、続いて 3 回生68名、修士大学院生62名の順となっています。



附属図書館すてき企画

●新入生図書館オリエンテーション●



来て、見て、使って

新入生の皆さんをお迎えして、図書館の利用方法や図書・雑誌の検索方法をお知らせします。
図書館を大いに活用してキャンパス・ライフにお役立てください。
第一部、第二部それぞれ同じ内容でも回すつ開催しますので、ご都合のいい時においでください。

第一部 附属図書館の利用案内

日時：下表の1の時間帯
場所：附属図書館3階A Vホール
内容：
1. 附属図書館の設備の案内
2. 利用証・貸出・返却・予約・更新等の利用方法の説明
3. カード目録とOPACについて

第二部 OPAC(資料検索端末)の使い方

日時：下表の2の時間帯
場所：附属図書館1階 カウンター前
内容：OPACの使用法説明と実習

*OPAC(オーバック)は学内の図書や雑誌を検索するシステムです。

日程表	4/21(月)	4/22(火)	4/23(水)	5/14(水)	5/15(木)	5/16(金)
12:15~12:45	①利用案内 ②OPAC	①利用案内 ②OPAC	①利用案内 ②OPAC	①利用案内 ②OPAC	①利用案内 ②OPAC	①利用案内 ②OPAC
15:00~15:30	②OPAC ①利用案内	②OPAC ①利用案内	②OPAC ①利用案内	②OPAC ①利用案内	②OPAC ①利用案内	②OPAC ①利用案内

参加は自由
事前の申し込みは不要です。
どなたでもご都合のよい時にご参加ください。
新入生以外の方でも参加できます。

お問い合わせ先 附属図書館 参考調査掛 (075-753-2836)
E-mail: tuzuki@kui.lib.kyoto-u.ac.jp

1997年 春 京都大学附属図書館

この講座の開催を知ったのは、館内に掲示したポスターを見てという方が最も多かったのですが、今回初めてネットニュースやインターネットホームページ等の電子媒体でのお知らせも試みました。今後とも、普段図書館に来ておられない方にも広くお知らせしていきたいと思っています。

受講して役に立った内容としては、雑誌文献の探し方が最も多く234名でした。他に、図書の探し方、図書・雑誌以外の資料の探し方、相互利用の方法がそれぞれ同じくらいの方が役に立ったとされています。

講座の実施時間帯はほとんどの方(90.0%)がちょうどよいとされています。講座の長さは、適当(71.1%)、開催の時期はこのままでよい(63.6%)という意見がほとんどでしたが、実施時期をもっと前に、春から夏休み前に持ってきてほしいという意見もありました。次年度以降の実施計画をたてる際の参考にしたいと思います。

他にどのような講座を希望するかについては、OPAC、CD-ROM、インターネットのような電子関連の機器を使った検索の講座、実習形式の講座、ジャンル別のより詳細な文献収集講座等への希望がありました。

その他、図書館に対する要望もたくさん書かれていました。それぞれ検討して今後の参考にしていきたいと考えています。

(参考調査掛)



■CD-ROM ネットワークサーバシステムに PsycLIT(心理学行動科学文献情報)追加



標記 CD-ROM データベースの吉田地区へのネットワーク提供を平成9年1月から開始しました(本号「PsycLITのネットワーク利用について」もご覧ください)。

【利用法】

申請

・附属図書館⑦カウンター(参考調査)、文学部図書室(哲・文)、教育学部図書室および総合人間学部図書館に備えてある「利用申請願」を、附属図書館参考調査掛まで学内便等で提出してください(申請時には電子メールアドレスをお知らせください)。折り返し電子メールで、接続先 IP アドレス、利用のための User-ID および Password を通知いたします。

検索ソフト

・専用検索ソフト(Macintosh 用、Windows 用など)は、KUINS の anonymous ftp などにより入手してインストールしてください。telnet による利用(検索ソフト不要)及び internet(www)からの検索も可能です。

internet からの接続は附属図書館のホームページから、「CD-ROM 検索」のアイコンをクリックすると検索が開始できます。ただし、User-ID と Password は必要になりますのでご注意ください。

附属図書館からの利用

・学部生など利用登録者以外の方も、附属図書館1Fの専用クライアント(医学情報 Medline 等と兼用)で検索できます。

(参考調査掛)



■“access.txt—文献調査・利用ガイド(第1版)”の刊行を計画



「access.txt—文献調査・利用ガイド」(第1版)を刊行します。昨年度末に発行した beta Version に、今年度新たに受けた参考質問とその回答を追加したもので、全体の構成は以下に記しますように第一部と第二部にわかれています。

第一部「文献の探索・発見・入手」では、京大での図書・雑誌の探し方について、OPAC 端末、目録カードの使用法を説明しています。

第二部「様々な学術情報へのアクセス」では、論

文等を探す情報源（文献目録、CD-ROM、internet 上の URL アドレスなど）について紹介しています。
(参考調査掛)

新入生オリエンテーション開催のご案内

まもなく 4 月、新入生のみなさんをお迎えして、図書館の利用方法をお知らせし、大いに利用していただく、オリエンテーションを下記の日程で開催することになりました。図書館の建物内の設備やいろいろなサービスを知っていただき、キャンパス・ライフに役立てていただきたいと思います。第一部、第二部それぞれ同じ内容で、三日間 6 回ずつ開催しますので、ご都合のいい時においでください。

(第一部) 附属図書館の利用案内

日時：下表の①の時間帯

場所：附属図書館 3 階 A V ホール

内容：1. 附属図書館の設備の案内
2. 各種サービス内容の説明
3. カード目録と OPAC について

(第二部)

日時：下表の②の時間帯

場所：附属図書館 1 階 カウンター前

内容：OPAC/TSS の使用法説明と実習

	4/21(月)	4/22(火)	4/23(水)	5/14(水)	5/15(木)	5/16(金)
12:15~12:45	①	②	①	②	①	②
15:00~15:30	②	①	②	①	②	①

(参考調査掛)

図書館利用証と学生証の一元化について

図書館業務における事務改善合理化事項のうち、重要事項として事務機構改善検討委員会報告書で指摘していた図書館利用証の一元化については、平成 8 年 1 月に附属図書館館長から教務事務電算管理運営委員会に、図書館利用証と学生証の機能面での統合についての検討を依頼し、その後関連事務部門間でも磁気カード化を含めて実現に向けて検討を行ってきました。

その結果、平成 9 年度以降の新入学部生と大学院生について、現行学生証のレイアウト変更を行い利

用証番号を印刷することで一元化を実現することとなりました。

このことにより、事務改善合理化の実現とともに利用者は学生証だけで入館や貸出ができることとなります。

なお、現在は附属図書館と総合人間学部図書館の入館と貸出し、理学部中央図書室での貸出しだけに対応していますが、平成 10 年 1 月の図書館業務用電子計算機システム更新後は、このカードで利用可能な図書館(室)が増える予定です。(資料運用掛)

平成 8 年度大型コレクション「古地図及び地理学文献コレクション」 (室賀コレクション) を購入

平成 8 年度文部省に標記図書資料(大型コレクション)の購入費を要求いたしましたところ承認されました。

この室賀コレクションは、元京都帝国大学文学部

助教授で、地理学史の研究者であった故室賀信夫氏(1907—1982)が収集した、地理学史・地図史分野の国内有数の文献群です。

古地図 511 点、和本 199 点、洋書 285 点、その他 2

点、計997点で構成されています。

古地図は、日本全図、世界図、支那朝鮮並外国、日本地方図、北辺図、道程図、都市図、名所絵図、日本分国図、特殊図、欧州古版図からなり、特に、世界図・道程図が充実したコレクションです。研究対象となる一次資料が本コレクションの中核をなしており、それ以外に、貴重書を含む地理学、地誌、地図作製法、対外交渉史等の関連和本・洋書を含んでいます。

さらに、京都大学は、我が国における地理学史・地図史分野の最先端の研究機関として機能しており、

附属図書館及び文学部博物館収蔵の和製古地図コレクションは、内外の研究者から利用の要望が高いものでした。これに、室賀コレクションが加わることによって、国立歴史民俗学博物館の秋岡コレクション及び横浜市立大学所蔵の鮎沢コレクションと並び、わが国最大級の古地図コレクションが形成されることになります。

学内・外の研究者の共同利用に供することにより、学術研究活動に益し、利便が大いに高まることが期待されます。

(図書受入掛)

全学共通科目用参考図書、大学院生用専門参考図書および 留学生用図書館資料の購入費が認められました

平成8年度の教育研究学内特別経費として申請していました標記図書館資料の購入費が承認されました。

従来より、本館は学問分野全般の基本的な図書、学術雑誌、視聴覚資料の収集に努め、特に、学部・研究科で収集されない世界書誌、広領域の解題、目録、索引をはじめとする参考図書を中心的に収集してきました。全学共通科目用参考図書購入費によって、近年の学生定員の増加、貸出冊数の増加に対応すべく、一般教育（全学共通科目）の高度化及び学部の授業に伴う多様な学習を支援する参考図書の整備充実を図って行きます。

加えて、大学院重点化による大学院生の増加、本館の利用急増に対応するため、大学院生用参考図書

購入費によって、調査・研究に必要な各分野の専門参考図書の整備充実を図って行きます。

さらに、従前から留学生のためにも、本館の設備・情報・資料を提供してきましたが、多国にわたって増加する留学生（短期）の利用に供するための図書館資料を購入します。特に、日本の文化や風土、日本人、日本語及び日本の政治・経済・技術の正確な理解を深めるために、不足している日本関係情報資料を収集します。具体的には、日本紹介ビデオ、日本旅行案内書、日本研究図書、日本語学習用図書及びそのテープ、各国語日本語辞書などです。これら日本関係情報資料の整備充実は利用者層の国際化に対応するために必要不可欠なものです。

(図書受入掛)

全国共同利用図書資料（大型コレクション）の利用案内について

このたび下記大学図書館より、平成7年度全国共同利用資料（大型コレクション）について利用案内が送付されてきましたので、お知らせいたします。

なお、内容明細につきましては、附属図書館1階参考コーナーにリストがありますのでメインカウンター7番でお尋ねの上、ご参照下さい。

琉球大学附属図書館

在米・日系移民新聞コレクション（マイクロフィルム）

岩手大学附属図書館

Ultra Violet Spectra Vol.1-15

福井大学附属図書館

Sammlung der Deutscher-Anzeiger und stenographische Berichte

（ドイツ官報及び議会速記集成）

福岡教育大学附属図書館

Physical education, sports science, sports medicine and physical fitness

（スポーツ教育情報の総合的研究）

* 内容明細あり

(参考調査掛)

教官寄贈資料紹介

(平成 8 年 8 月—平成 9 年 2 月)

石田 亨 (工・教授)

- ・分散人工知能 '96

大浦康介 (人文・助教授)

- ・文学をいかに語るか：方法論とトポス '96

岡田康伸 (教・助教授)

- ・被災後に親元を離れて集団生活を送る子どもたち—カウンセラーの視点からラーニングステイを振り返って—平成 7 年度京都市震災対策調査研究助成金研究成果報告書 '96

小川 侃 (人環・教授)

- ・自由への構造—現象学の視点からのヨーロッパ政治哲学の歴史— '96

加藤尚武 (文・教授)

- ・ショーペンハウアー全集 全14巻別巻1 '96
- ・現象学事典 '94
- ・ニーチェ事典 '95
- ・講談社学術文庫
 - 妻 和辻照への手紙 (上) (下) '95
 - 西国立志編 '93
 - 本居宣長 '93
 - 瀕死のリヴァイアサン '95
 - 近代政治思想史 '95
 - 差異としての場所 '96
 - 生命科学 '96
 - 天使論序説 '96
 - 昭和初期日本の構造 '96
 - 内乱期 '96
 - フランスことば事典 '96
 - ケルト妖精学 '96
 - モーツァルト考 '96
 - 中国的レトリックの伝統 '96
 - 近代日本精神史論 '96
 - ユングとキリスト教 '96
 - 論文の技法 '96
 - 細川幽斎 '96
 - 私という現象 '96
 - 聖と呪力の人類学 '96
 - 王女クードルーン '96
 - 社会哲学の復権 '96
 - 小泉八雲新考 '96
 - 日本憲法思想史 '96

維新への胎動 (下) '96

「オイディプース王」を読む '96

戦後日本政治史 '96

保田與重郎 '96

日本古代国家の成立 '96

ドイツ教養市民層の歴史 '97

つくられた桂離宮神話 '97

現代短歌入門 '97

現代倫理学入門 '97

敬語 '97

近代経済学の歴史 '97

ヘーゲル '97

金子周司 (薬・助教授)

- ・ザ・インターネット：医学・生物学研究のためのパーフェクトガイド '96

川出由己 (ウイルス研・名誉教授)

- ・見えざる病原体を追って—ウィルス学史序論— '87
- ・社会現象としての科学—科学の意味を考えるために— '95

木崎喜代治 (経・名誉教授)

- ・ガレー船徒刑囚の回想 '96

紀平英作 (文・教授)

- ・パクス・アメリカナへの道 '96

木村逸郎 (工・教授)

- ・放射線計測ハンドブック 第2版 '96

京都大学学術出版会

- ・現代における人間と宗教 有福孝岳編著 '96
- ・昆虫固体群生態学の展開 久野英二編著 '96
- ・近世の市場経済と地域差 草野正裕著 '96

京都大学女性教官懇話会

- ・女性教員・女子卒業生からみた京都大学 '96

京都大学文学部博物館

- ・莊園を読む・歩く '96

清水 茂 (文・名誉教授)

- ・水滸伝 第9巻 第10巻 '96

高橋由典 (総人・助教授)

- 感情と行為：社会的感情論の試み '96

武部 啓 (医・教授)

- 創られた恐怖 発ガン性の検証 '96
- ポピュラー・サイエンス
 - チンパンジーのなかのヒト '90
 - 21世紀のハイテク農業 '92
 - 細胞培養から生命をさぐる '92
 - 時間を知る生物 '96
 - ネコの毛並み '96
 - 分子人類学と日本人の起源 '96
 - 新しい健康読本 '96
 - 東京近郊博物館で生物を学ぼう '96
 - 健康美をつくる乳製品 '96
 - 視覚のメカニズム '96
 - 老人ボケは防げるか '96
 - 地球温暖化とその影響 '96
 - 背に腹はかえられるか '96
 - 飲酒の生理学 '96

田中真介 (総人・助手)

- Development and Education in Childhood '96

田中雅一 (人文・助教授)

- Patrons, Devotees and Goddesses '97

長尾 眞 (工・教授)

- 国定読本用語総覧 11 '96
- 日本研究・京都会議 1～4 '96
- 日刊スポーツ五十年史 '96
- 大阪ガスこの10年 '96
- I P Sへの道 リコー60年技術史 '96
- 岩波書店八十年 '96
- プログラミングの壺
 - 1. ソフトウェア設計編 '95
 - 2. 人間編 '96
 - 3. 技術編 '96
- 情報フロンティアシリーズ
 - 5. 巨大データの世界 '94

- 8. コンピュータで通信はこんなに変わる '94

- 9. 口ごもるコンピュータ '95

- 13. ウィルス退治 '96

- 14. 人間に近づくコンピュータ '96

- 15. みえない「イメージ」を見る '96

- 16. 宇宙開拓とコンピュータ '96

- コンピュータ・ドリーミング：オーストラリア・アボリジニ世界への旅 '95

- マルチメディア時代の起点：イメージからみるメディア '96

- 文科系のための情報検索入門 '96

- 誰がどうやってコンピュータを創ったのか? '95

- パソコン英日翻訳ソフト活用法(付CD-ROM) '94

- 第五世代コンピュータ研究開発の終わりにあたって '95

- 国際高等研究所シンポジウム 文化の翻訳可能性 '93

- KANSAI 夜景100選 '97

林 力丸 (農・教授)

- High Pressure Bioscience and Biotechnology '96

- 高压科学と加圧食品 '91

- 加圧食品—研究と開発— '93

- 生物と食品の高压科学 '93

- 食品への高压利用 '94

- 高压バイオサイエンス '94

- High Pressure and Biotechnology '92

前川道郎 (教養・名誉教授)

- 前川道郎退官記念講演：著作・作品目録 '95

松下千吉 (教養・名誉教授)

- ワーズワス考—人(間)・自然・唯一者— '96

霊長類研究所

- サルとヒトの接点を求めて—自己点検・評価と外部評価— '96

渡辺弘之 (農・教授)

- 樹木がはぐくんだ食文化 '96

平成8年度学生希望購入図書一覧

(1997年1月末現在)

書名(請求記号)

赤いポスト白書：阪神・淡路大震災(DK/321/ア1)
アспект・テンス体系とテキスト(KF/81/ア1)
アメリカ管理原価会計史(DH/551/ア1)

アメリカ・インディアン死闘の歴史(G/161/ア4)
暗号理論の基礎(M/121/ア2)
医学歯学系大学院案内 1996年度版(FD/4/イ2)

- 医学の復権：医学体系の科学化へ向けて (SC/21/イ12)
 いちばんやさしい憲法入門 (A/211/イ1)
 意味について (KE/87/イ7)
 宇宙空間観測30年史 (MB/21/ウ14)
 英語文体論 (KS/55/エ2)
 エキスパートCプログラミング：知られざるCの深層
 (M/159/エ16)
 演習憲法 新版 (AZ/213/エ4)
 応用数学の基礎 (MA/21/オ6)
 おもしろ哲学史 (HD/1/オ1)
 会計制度のダイナミズム (DH/512/カ27)
 科学と教育：科学の新しい分野・授業科学... (FC/87/
 カ2)
 環境の経済評価テクニック (EG/295/カ1)
 観経四帖疏講義 4-6 巻 (HM/162/カ1)
 軌跡：宇宙空間観測30年記念随想集 (MB/21/キ2)
 基本権 (AZ/213/ケ51)
 近現代史の考え方 (FC/75/キ3)
 近世地方出版の研究 (UE/17/キ1)
 近代装飾事典 (KC/521/キ1)
 組版原論：タイポグラフィと活字・写植・DTP...
 (PE/61/ク1)
 経営学エッセンシャルズ (DH/3/ケ57)
 経済論文の作法：勉強の仕方・レポートの書き方 (DA/
 3/ケ4)
 刑事訴訟法：Iitai-houdai (AZ/791/ケ28)
 刑法各論 第2版 (AZ/716/ケ33)
 刑法各論概要 第2版 (AZ/716/ケ35)
 刑法講義総論 第4版補訂版 (AZ/716/ケ34)
 刑法総論 (AZ/712/ケ37)
 刑法総論 第2版 (AZ/712/ケ35)
 刑法総論講義ノート 第2版 (AZ/712/ケ36)
 刑法の重要問題 各論 補訂版 (AZ/712/ケ34)
 刑法の重要問題 総論 補訂版 (AZ/712/ケ34)
 ゲノムネットのデータベース利用法 (RA/111/ケ4)
 言語と認識のダイナミズム (KE/13/ケ13)
 (岩波講座)現代数学への入門18 (MA/21/イ2/18)
 憲法 (AZ/213/ケ52)
 憲法学 1 (憲法総論) (AZ/213/ケ54)
 憲法学 2 (人権総論) (AZ/213/ケ54)
 憲法学教室 2 新版 (AZ/213/ケ42)
 憲法講義案 1 第2版 (AZ/213/ケ49)
 憲法講義案 2 (AZ/213/ケ50)
 憲法と宗教制度 (A/211/ケ15)
 憲法の解釈 1, 2, 3 (AZ/213/ケ53)
 憲法フィールドノート (A/211/ケ14)
 航空の規制緩和 (DK/216/コ1)
 高分子の物理学：スケーリングを中心にして (MC/191/
 コ2B)
 国際法入門 (A/151/コ26)
 国産ロケットH-II 宇宙への挑戦 (NC/141/コ1)
 戸籍解体講座 (AZ/857/コ4)
 コミュニケーションとしての身体 (G/121/コ2)
 コンピュータの構成と設計 上・下巻 (M/154/コ29)
 最新重要判例250刑法 (CZ/2711/サ1)
 財務会計概論 (DH/512/サ7)
 サッカー狂の社会学：ブラジルの社会とスポーツ (FS/
 35/サ4)
 さようならファインマンさん (GK/410/サ5)
 持続可能性の経済学：循環型社会をめざして (EG/281/
 シ6)
 事典家族 (E/2/シ10)
 失語論：批判的研究 (SC/367/シ8)
 シベリアへのまなざし：シベリア牧畜民の民族学的研
 究 (G/131/シ2)
 社会科学系大学院案内 1996年度版 (FD/4/シ8)
 商法総則・商行為法 第2版 (AZ/862/シ20)
 商法総則講義 (A/861/シ2)
 情報文化問題集 (EC/235/シ8)
 初歩の心理・教育統計法 (MA/211/シ11)
 人文科学系大学院案内 1996年度版 (FD/4/シ7)
 心理学：理論とその応用 第2版 (SB/21/シ15)
 スポーツの真実：迷走するスポーツ界の影と光 (KD/
 961/ス1)
 静的貸借対照表論の研究 (DH/526/セ1)
 制度の経済学：制度と経済行動 上・下 (DA/26/セ4)
 ゼミナール現代会計入門 (DH/511/セ1)
 千のプラトー (HD/135/セ4)
 叢書史層を掘る 1 (GB/97/ホ2)
 叢書史層を掘る 2 (KG/733/モ3)
 叢書史層を掘る 3 (GB/77/オ1)
 叢書史層を掘る 4 (GD/1/キ3)
 叢書史層を掘る 5 (GD/5/ヒ1)
 ソロモンの新有機化学 第4版 上・下 (PA/312/ソ4)
 損益計算の構造 (DH/526/ソ1)
 多角形の現代幾何学 (MA/91/タ1)
 超市場化の時代：効率から公正へ (DD/1/チ2)
 手形・小切手法 (新法学ライブラリ 15) (AZ/891/テ15)
 ドイツ (DE/151/ト1)
 特別講義民法：総則 (AZ/812/ト2)
 特別講義民法：物権法・担保物権法 (AZ/812/ト2)
 二十世紀の政治思想 (A/21/ニ1)
 ニッポン政治の解体学 (A/12/ニ5)
 日本ロケット物語：狼煙から宇宙観光まで (NC/141/ニ
 1)
 日本中世の家と親族 (GB/211/ニ12)
 反対給付論の展開 (A/821/ハ1)
 ファインマンさん最後の冒険 (GE/485/フ1)
 不法行為法 (AZ/839/フ4)
 フーリエの冒険 (MA/121/フ5)
 プログラマに捧げる GNU Emacs ガイトブック (M/
 159/フ32)
 プログラミング言語C++ 第2版 (M/159/フ33)
 分子軌道法 MOPAC ガイドブック 2訂版 (PA/47/フ

11)
 文章の計量：文学研究のための計量文体学... (KE/21/
 フ1)
 ベーシック判例刑法：刑法の基礎と重要判例整理 (AZ/
 711/へ1)
 防災と環境保全のための応用地理学 (GB/51/ホ1)
 北欧社会の基層と構造 1-3 (GG/611/ホ3)
 北方諸文化に関する比較研究 (G/121/ホ2)
 ミサイル事典 (PS/112/ミ1)
 民法 1 (総則・物権総論) (AZ/811/ミ34)
 民法 3 (債権総論・担保物権) (AZ/811/ミ34)
 民法講要 2 (物権) 第2版 (AZ/811/ミ32)
 民法講要 3 (債権総論) 第2版 (AZ/811/ミ32)
 民法総則 第2版補訂版 (AZ/811/ミ35)
 免疫生物学：免疫系の正常と病理 (SC/151/メ28)
 唯物弁証法の成立と歪曲 (US/21/ミ1)
 誘惑論：言語と(しての)主体 (KE/12/ユ1)
 ユリ (RB/194/ユ1)
 ラスウェルと丸山政治学 (A/12/ラ1)
 リーディングズ現代の憲法 (AZ/225/リ1)
 恋愛のディスコース・断章 (KE/185/レ1)

早稲田大学と私 (GK/30/ワ18)
 Cによる科学技術計算 改訂版 (M/159/シ48)
 Motif プログラミング：プログラミングリファレンス
 (M/159/モ4)
 Turbo C 初級プログラミング：改訂 Ver. 2.0版 (M/
 159/タ6)
 UNIX X ウィンドウプログラミング (Xlib) (M/159/ユ
 17)
 Asian NIESs and the global economy... (DC/144/A1)
 Bodies that matter : on the discursive... (EF/91/B1)
 Growth, trade and endogenous technology (DL/313/
 O1)
 Lecture critique d'Alexis de Tocqueville (A/27/L2)
 Making sense of a changing economy... (DC/23/N1)
 Minimalism and linguistic theory (KE/81/M1)
 Molecular quantum mechanics. 3rd ed. (PA/47/A2)
 Profile of the worldwide semiconductor... (DL/471/
 P1)
 Technological collaboration... (DA/83/T1)
 Technological evolution, variety... (DA/83/S1)
 The restless mind: Alexis de... (A/27/L3)

図 書 館 日 誌

平成8年9月—平成9年2月

9月

- 3日 図書館業務用電子計算機システム
仕様策定委員会 (第1回)
- 13日 附属図書館商議会 (第2回)
選書分担商議員会議

10月

- 3日 NACSIS-IR 地域講習会 (—4日)
- 7日 中級オリエンテーション：1
「文献収集講座」(—8日)
セミナー「文字コードとデータベースの展望」
- 14日 中級オリエンテーション：2
「文献収集講座」(—16日)
- 15日 図書館業務用電子計算機システム仕様策定委
員会 (第2回)
- 16日 国立大学図書館協議会秋季理事会
- 22日 目録システム地域講習会：1 (—24日)
- 23日 留学生オリエンテーション
- 28日 目録システム地域講習会：2 (—30日)
国公立大学図書館協力委員会

11月

- 6日 図書館業務用電子計算機システム
資料提供招請のための官報公告

国立七大学図書館事務部課長会議 (東京大学)

- 8日 秋季展示会記者公開
- 11日 秋季展示会開催 (—17日)
大学図書館職員講習会 (—14日)
- 15日 秋季展示会記念講演会
「今昔物語集の〈構造〉と歴史学」
- 18日 図書館業務用電子計算機システム
導入説明会
- 19日 ILLシステム地域講習会 (—20日)
- 27日 国立大学図書館協議会シンポジウム (名古屋大
学) (—28日)

12月

- 3日 次期システムワーキンググループ
全体会議 (第4回)
- 5日 京都図書館大会
- 10日 次期システムワーキンググループ
電子図書館グループ会議
- 12日 次期システム全学検討会議 (第3回)
- 19日 図書館業務用電子計算機システム
仕様策定委員会 (第3回)
- 25日 平成9年度概算要求
「電子図書館システム」予算内示

1997年

1 月

- 20日 図書館業務用電子計算機システム
仕様策定委員会（第4回）
- 21日 附属図書館商議会（第3回）
- 23日 国立大学附属図書館事務部長会議（金沢）
- 24日 近畿地区国公立大学図書館協議会
研究集会：施設見学
大阪市立大学総合情報センター

2 月

- 6 日 総合評価基準等作成に関する説明会

(大阪大学)

- 13日 近畿地区国公立大学図書館協議会
主題別研究集会：柴田正美（三重大）石田義光
（東北学院大）
- 21日 学術情報センター：新目録所在情報サービス
説明会
- 26日 図書館業務用電子計算機システム
仕様書（案）に対する意見招請のための官報公
示
- 28日 近畿地区国公立大学図書館協議会
主題別研究集会：石井啓豊（図書館情報大）笥
久美子（奈良大）

平成 9 年度 図書館カレンダー

月	業 務 予 定	月	業 務 予 定
平成 9 年 4 月	1日～5日 春季定例休館	1 0 月	
	11日 入学式	1 1 月	25日～12月14日 冬季休暇中長期貸出 （書庫内図書：院生・教職員）
	15日 年度末長期貸出返却日	1 2 月	10日～24日 冬季休暇中長期貸出 （開架図書：利用対象者全員） （書庫内図書：学部生） 24日～1月7日 冬季休業 25日～1月5日 年末年始 休館
5 月		平成 1 0 年 1 月	6日～7日 短縮開館 8日～ 夜間業務開始 16日 冬季休暇中長期貸出返却日
6 月	3日～7月4日 夏季休暇中国立六大学附属図書館 の利用申込み受付 18日 創立記念日【休館】 19日～8月15日 夏季休暇中長期貸出 （書庫内図書：院生・教職員）	2 月	
7 月	1日～9月9日 夏季休暇中国立大学学生の利用 受付 5日～9月2日 夏季休暇中長期貸出 （開架図書：利用対象者全員） （書庫内図書：学部生） 19日～9月9日 夏季休業 19日～9月9日 【夏季休業中土曜・日曜日休館】 短縮開館	3 月	1日～14日 年度末長期貸出 （書庫内図書：院生・教職員） 18日～30日 年度末長期貸出 （開架図書：利用対象者全員） （書庫内図書：学部生） 23日 修士学位授与式 24日 卒業式 29日 卒業予定者最終貸出日 30日 卒業予定者最終返却日
8 月			
9 月	10日～ 夜間業務開始 17日 夏季休暇中長期貸出返却日		

★毎月末日は図書整理のため休館いたします。

☆前期試験：9月10日～30日

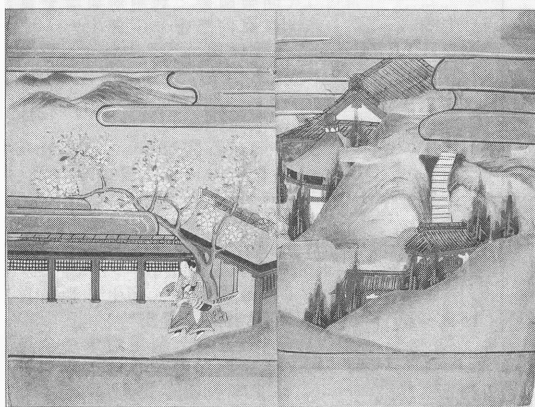
後期試験：1月22日～2月18日

（平成10年4月1～7日春季休業、15日長期返却日の予定）

目次

<p>＜巻頭言＞</p> <p>・倫理学者にもわかる工学書を (文学部教授加藤尚武)</p> <p>＜報告・レポート＞</p> <p>・PsycLIT(心理学行動科学文献情報)のネットワーク利用について(沼澤博)</p> <p>・アメリカの大学図書館訪問記-II: UCLA(カリフォルニア大学ロサンジェルス校)(片山淳)</p> <p>・平成8年度国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区:名古屋大学)に参加して(小川晋平)</p> <p>＜図書館の動き＞</p> <p>・学術情報センターとの共催による地域講習会(IR、CAT、ILL)を開催</p> <p>・学術情報センターの新目録所在情報サービス説明会を開催</p> <p>・「電子図書館システム」構築に向けて動き始めました</p> <p>・本館ホームページが「国立大学優秀広報誌等表彰・奨励賞」を受賞しました</p> <p>・展示会「『今昔物語集』への招待」を開催</p>	<p>頁</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>9</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>10</p>	<p>・「論文・レポートのための文献収集講座」開催は大好評のうちに</p> <p>・CD-ROMネットワークサーバシステムにPsycLIT(心理学行動科学文献情報)追加</p> <p>・“access.txt—文献調査・利用ガイド(第1版)”の刊行を計画中</p> <p>・新入生オリエンテーション開催のご案内</p> <p>・図書館利用証と学生証の一元化について</p> <p>・平成8年度大型コレクション「古地図及び地理学文献コレクション」を購入</p> <p>・全学共通科目用参考図書、大学院生用専門参考図書および留学生用図書館資料の購入費が認められました</p> <p>＜資料利用案内＞</p> <p>・全国共同利用図書資料(大型コレクション)の利用案内</p> <p>・教官寄贈資料紹介(平成8年8月—平成9年2月)</p> <p>・平成8年度学生希望購入図書一覧</p> <p>＜図書館日誌＞</p>	<p>11</p> <p>12</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>13</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>18</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

京都大学附属図書館所蔵 貴重書『鳥帽子折草紙』[上巻 pp. 004-005]



Copyright 1997, Kyoto University Library

京都大学附属図書館館報「静脩」
Vol. 33 No. 2 (通巻123号)
発行: 1997年3月31日
編集: 静脩編集委員会
(責任者: 附属図書館事務部長)
刊行者: 京都大学附属図書館
〒606-01 京都市左京区吉田本町
Tel. 075-753-2613

〔編集後記〕2000年を控えて、図書館に大きな波が寄せてきているように思われます。インターネットそして電子図書館が端的にそれを言い表しているのでしょう。この広報誌も、ホームページによって公開されるようになっていきます。どこのどんな人がこれを読むことになるのでしょうか。その意味からこのままの編集方針で良いのか見直すことも必要になっているのかも知れません。ともかく、今回は、文学部の加藤先生から巻頭言をいただきました。図書館は各専門分野の最新の基礎知識を入手できなくては……というものでした。新しいシステムの導入を控えて学内の衆知を集めた図書館の機能的なまとまりが必要になっていると思われます。調整された分散主義から、分散の中での機能的集中をということになるのでしょうか……(Z)